



アニュアルレポート

2025-2026（令和7年度）



ライツオン・チルドレンの目的、存在意義

**ライツオン・チルドレンは、
子どもの権利と機会をまもるために、
資源をつくり最適なかたちで届けます。**

子どもの成長はパズルのようです。1人ひとりの子どもが持つパズルは、絵柄もピースの形も、完成形も全く違います。

パズルを完成させるには、いろいろなピースが必要です。このパズルのピースを私たちは「資源」と呼んでいます。例えば大人との信頼関係の構築や、人と一緒に何かをする体験、様々な情報、モノやお金など…子どもたちにとって必要な「資源」は多岐にわたります。

すべての子どもたちが、必要な「資源」を周りに十分に持っているとは限りません。

ピースが不足している状況の子どもや、どのようにピースを組み合わせればいいのか分からずに困っている養育者がいます。

私たちは、こうした子どもたちの「ニーズ」を踏まえて、必要な「資源」を集め、届け、彼らが自分自身のパズルを完成させることができるように活動しています。



ご挨拶

理事長

立神 由美子



日頃より、ライツオン・チルドレンの活動にご理解、ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

一般的に、子育ては「自分が育ってきた環境」に大きく左右されると言われます。人は無意識のうちに、自分が親から受けた関わり方を基準にして子どもに接してしまいがちです。そのため、育ってきた環境が異なる他者と一緒に子どもを育てるときに、方針の違いに悩むことは珍しくありません。

児童養護施設では、家庭内で虐待などの逆境を経験した子どもを多く迎え入れています。そうした現場では、一般的な養育者の「自分が育てられたときの実体験や暗黙の前提」がそのまま通用することはありません。「この子はどのような生き立ちをたどり、今どのような状態にあるのか」という、1人ひとりの背景に寄り添った関わりが、子どもを支える現場で日々求められています。さらに現代の養育現場には、大人が子どもの頃には存在しなかった新たな壁も立ちはだかっています。スマートフォンの普及やインターネット環境への対応です。スマートフォンは子どもたちの世界を広げる便利な道具である一方、大きなトラブルや危険と隣り合わせです。まして、逆境的な背景から生きづらさを抱える子どもたちにとって、ネット空間への依存やトラブルはより深刻な課題となり得ます。自分が子どもの頃を経験してこなかったデジタル社会の中で、いかに子どもを守り、自律を促していくか——。これは、現場の養育者のみならず、社会全体が直面している大きな課題です。

私たちは、「子どもの逆境的な生き立ち」と「テクノロジーの急速な変化」という2つの要素が、養育者と子どもとの間に新たなすれ違いや摩擦を生んでしまうことを危惧しています。

2024年からスタートした「ワタシとスマホ」プロジェクトは、まさにこの問題意識から出発しました。生きづらさを抱える子どもの孤立を防ぎ、子どもがデジタル世界へとつながりを広げるときに、まずは養育者とのつながりを足がかりにしてもらうことを目指しています。

子どもたちが大人に見守られながら、新しい時代の波を安全にイキイキと泳ぎ切っていけるように。私たちはこれからも「子どもの最善の利益」を第一に掲げ、養育の現場に寄り添いながら歩みを進めてまいります。

今後とも、皆さまの変わらぬ温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

法人概要

2026 年 8 月 1 日現在

名称

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン
(Lights On Children 略称 LOC)

設立

2014 年 5 月（法人格取得）

所在地

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1 丁目 10 番 8 号 渋谷道玄坂東急ビル 2F-C

役員等

理事長（法人代表）

立神 由美子 社会福祉法人蓮花苑 児童養護施設れんげ学園 統括学園長秘書・広報担当

理事

大坂 太一 社会福祉法人セント・ジョセフ会 常務理事 / 一般社団法人 Riccolab. 顧問

伊丹 桂 社会福祉法人ベタニヤホーム 母子生活支援施設ベタニヤホーム 施設長

監事

野口 五丈 リライル税理士法人 代表（公認会計士・税理士）

正会員

12 人（理事長・理事 2 人・監事を含む）

事務局

職員

職員数合計 6 人

うちフルタイム職員 5 人（理事長・事務局長を含む）

うちフルタイム以外の職員 1 人（理事 1 人）

事業概要

資源を”届ける”事業

子どもや養育者、社会的養護の関係者が持つ課題やニーズを把握し、それにマッチする資源を提供することを目指します。
2025 年度も、社会的養護のもとで暮らす子どもたちの背景に注目しながら、体験の機会を重視したプログラムを作成・提供しました。

—— 主な活動の報告は 5 ～ 10 ページ



パソコンを使った子どもの創作活動を 1 対 1 でサポート (パソつか)

資源を”耕す”事業

企業等に働きかけて、社会的養護などへの関心と理解を促し、寄付等の資源の創出・拡大を図ります。
2025 年度も、企業等に向けて特色あるファンドレイジング活動を行って活動資金を得るとともに、社会的養護等に関する啓発を行い、今後も関心や支援を向けて頂くよう働きかけました。

—— 主な活動の報告は 11 ページ



支援企業でのファンドレイジング活動

資源を”考える”事業

前掲の 2 つの領域について、調査、研究、開発を行い、新たな資源の創出を目指します。
2025 年度は、社会的養護の現場、外部の専門家、文献などから得た知見を成果物へとまとめ始めました。

—— 主な活動の報告は 12 ページ



児童養護施設職員との協働

その他の必要な事業

法人の目的を実現するために、上記 3 事業の他にも非営利の活動を行っています。
2025 年度も、社会的養護の経験者で当法人と以前から接点がある人に、相談などの支援を行いました。

パソつか

「パソつか」（「パソコンをつかってつくろう」の略）は、主に小中学生を対象にして、パソコンを使った創作活動の機会を提供しています。

パソコンを通じてテクノロジーに触れたり創作の機会を持ったりすることも大切な要素ではありますが、このプロジェクトでは、子どもたちの背景を踏まえて、子どもが安心感を持って新しいことにチャレンジし、小さな達成感を積み上げていけるように工夫をしています。例えば、大人のスタッフが子どもと必ずペアになって着席し、横で見守りながらプログラムに取り組むこと。子どもの興味、好き嫌い、得意・苦手、そして集中・飽きに大人が寄り添い、一緒に体験していくこと。子どもの身近な場で開催すること（児童養護施設では、私たちが施設を訪問すること）などです。また、パソつかは同じ子どもたちを対象に年度内で複数回開催し、子どもたちの成長を職員さんや里親さんと一緒に見守っています。

2025 年度のパソつかは、以下の表の 3 か所で開催しました（詳細は 6～7 ページ）。



連携先機関・開催場所 (敬称略)	訪問回数	参加者と人数	参加回数
埼玉県里親会 会場：あげお富士住建 ホール（埼玉県）	4 回 (5 月、7 月、10 月、11 月の 各 1 日間)	里親の家庭で暮らす 子ども 11 人	平均 3.5 回 / 人
児童養護施設 愛泉寮 (埼玉県)	4 回 (6 月、7 月、9 月、11 月の 各 1 日間)	愛泉寮で暮らす 子ども 17 人	平均 3.6 回 / 人
児童養護施設 島添の丘 (沖縄県)	3 回 (6 月、10 月、12 月の各 1 日間)	島添の丘で暮らす 子ども 9 人	平均 2.8 回 / 人

<埼玉県里親会様と連携して開催>

2年目の実施となった今年度は、約半数の子どもが前年度から継続して参加しており、スタッフが「久しぶり!」「背が伸びたね!」と声をかけ、初回からリラックスした雰囲気の中でスタートしました。

回を重ねるごとにパソコン操作も上達し、プログラミングでは、合成音声や独自のルール、大好きな野球のテーマを取り入れるなど、自由で主体的なアレンジが次々と飛び出しました。また、数か月かけてじっくり取り組んだ動画制作では、保護者の協力のもとで子どもたちが自ら撮影したペットや趣味の写真を素材として使用しました。自分の「好きなこと」が詰まった動画に字幕や複雑なアニメーションを加え、熱心に編集を重ねました。

最終回の発表会では、個性が光る作品を温かく見守る保護者の前で披露し、やり遂げた大きな喜びと手応えを掴む姿が見られました。この経験が、子どもたちにとって次の一步を踏み出す自信となれば幸いです。



<児童養護施設 愛泉寮様と連携して開催>

昨年度より参加者が増えて、小学生から高校生まで最大16人が集まる賑やかな開催となりました。普段から暮らし慣れた施設が会場ということもあり、ほとんどの子どもたちが最初からリラックスして創作へ臨んでいました。2年目ということもあり、見覚えのあるスタッフの顔を見つけて、嬉しそうにしている子もいました。

プログラミングでは、他の仲間の作品に刺激を受けて自分の声を録音して効果音に組み込むなど、子ども同士でアイデアを広げ合う姿が印象的でした。3回かけた動画制作では、小学生が「行きたいところ」をテーマに根気強く編集に挑戦。高校生は「施設の職員さんの紹介」という独自のテーマを掲げ、自らスマホで撮影した写真を使ってユーモアたっぷりの作品に仕上げました。

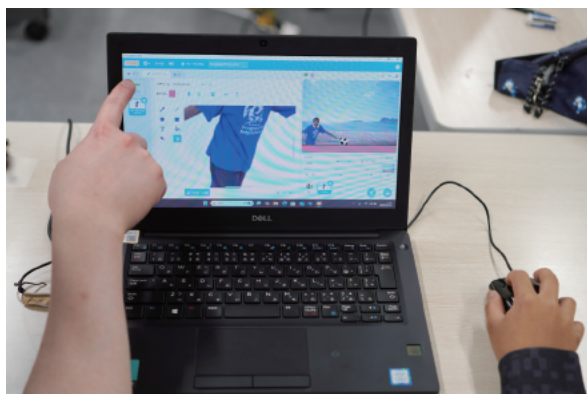
最終回の発表会は、それぞれの個性が弾ける力作が披露されるたびに歓声や拍手が起こり、お互いの成長を喜び合える賑やかな締めくくりとなりました。



<児童養護施設 島添の丘様と連携して開催>

島添の丘では、6月、10月、12月の全3回にわたり、ミュージックビデオ（MV）制作に挑戦しました。子どもたちはストーリーボードをもとに、生成AIを使って独自の歌詞や楽曲、そして音楽のイメージに合わせた画像を次々と作り出していました。言葉を入力するだけで本格的な音楽や画像が一瞬で生み出される技術に、子どもたちは大興奮。低学年の子どもが様々な言葉を入力して生成自体を楽しむ一方、高学年の子どもたちは理想の1枚を求めて細かなプロンプト（指示文）の調整を粘り強く繰り返す姿が印象的でした。最後は動画編集ソフトでエフェクトを加え、全員がこだわりの詰まった作品を完成させました。発表会には施設内の仲間や職員の皆様も多数集まり、大好きなバスケやアニメの魅力を表現したプロさながらの力作に、会場全体から大きな歓声が上がりました。

2023年2月から島添の丘でパソコンを実践してきました。子どもたちの成長とパソコン操作を吸収する速さを目の当たりにすることができ、また子どもたちと関係を築くことができ、私たちも多くのことを得ました。



パソコン・ゲット・チャレンジ

「パソコン・ゲット・チャレンジ」は、参加者が「パソコンが必要な理由」をライツオン・チルドレンのスタッフに向けて口頭発表し、3分以上発表するなど条件を満たすことで、再生ノートパソコンをゲットできる、というプログラムです。

ライツオン・チルドレンはこのプログラムを通じて、参加者の高校生にノートパソコンを贈るとともに、自分の想いや将来の希望を整理して、第三者に言葉で伝えて共感してもらうという、主体性を促す経験の機会も届けています。このプログラムを通じて手にしたパソコンと経験が、参加者の皆様のこれからの学びや生活を支え、可能性を広げる一助となることを願っています。

2025 年度は以下の表の募集枠を設けて実施しました（詳細は 9 ～ 10 ページ）。



（写真は2枚ともイメージです）

募集枠	開催場所	対象者	寄贈を受けた人数
東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県	ビデオ会議	1 都 3 県の社会的養護のもとで暮らす高校 3 年生・出身者 および 他の募集枠で所定の日程に参加できなかった人	26 人
沖縄県	ビデオ会議	沖縄県内の社会的養護のもとで暮らす高校 3 年生・出身者	9 人
高知県	ビデオ会議 および みその児童福祉会 複合棟「misono」	高知県の社会的養護のもとで暮らす高校 2 ～ 3 年生・出身者	11 人
Windows 11 移行対応	ビデオ会議	過去に寄贈されたパソコンを Windows 11 にアップグレードできないなど一定の要件を満たす人	5 人

<東京・千葉・埼玉・神奈川の1都3県向け>

2025年度は、東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県
の1都3県を対象としつつ、高知県や沖縄県からの希望
者も含むのべ28名が参加し、条件を満たした26名に
ノートパソコンを寄贈しました。

参加者の4割近くが、すでに施設や里親家庭などを離
れた社会的養護経験者でした。中には「進学先の履修
登録や課題をすべてスマホでやりくりしており、本当
に困っていた」という切実な状況の人もありました。

発表では、緊張しながらもスタッフとのリハーサルで
心をほぐし、未来への想いを一生懸命に語ってくれま
した。「進学後のレポート作成やオンライン授業に活
用したい」「就職活動のためにITスキルを身につけたい」「動画編集などクリエイティブな活動に挑戦したい」など、学業や将来を見据えた前向きな目標を聞くことができました。

自分の趣味など幅広く質問をして頂いて、より
自分のパソコンが必要だという気持ちを伝えら
れたと思います。私の答えに対してたくさんの
コメントを頂いて、自分の将来を身近に、明る
くとらえることができました。

——参加者

応募、事前練習、発表、質問という流れの中で、
学ぶものが多かったと思います。特に、パソコ
ンを自力で獲得し、セットアップし、自由に使
うという今回の体験は、当該児童にとって大き
な自信につながったように思います。

——児童養護施設 職員

<沖縄県向け>

沖縄では2024年度まで「パソコン寄贈&オンライン
講習会」を実施していましたが、2025年度から「パ
ソコン・ゲット・チャレンジ」へと移行しました。
日頃から彼らを支える施設職員の方や里親の方がすぐ
そばで見守っており、安心感もあってか、参加者は最
初からリラックスした様子で本番に臨んでいました。
どの参加者も、発表では自分の進路や将来の目標、あ
るいはその実現のためにパソコンをどのように役立て
たいかを、熱意を込めて一生懸命に説明してくれまし
た。「将来就きたい仕事のために資格の勉強をがんば
りたい」といった、具体的な目標が語られました。

プレゼンテーションで自分の将来について語っ
た事などが、後の推薦入試や論文のヒントに
なったそうです。物事を整理して、他人へアピー
ルする練習として、とても有意義であったと思
われます。

——児童養護施設 職員



撮影：沖縄県立石嶺児童園

いろいろ質問をしてくださって、緊張してる割
にちょっとだけほぐれて、肩の力が抜けました。

——参加者

<高知県向け>

高知県で社会的養護の自立支援などを行う「にじいろステーション」および「結いの実」に2025年度もご協力頂きました。2025年度はライツオン・チルドレンのスタッフが現地を訪問せず、ビデオ会議で東京と高知会場をつなぐというハイブリッド開催に挑戦しました。事前の発表準備や寄贈後のパソコンのセットアップは、日頃から子どもたちを支える現地の職員の皆様が手厚く伴走する形をとりました。

発表当日は、現地の支援機関の拠点「misono」が会場となりました。参加した高校生たちは、事前練習から一緒に取り組んできた職員の方に温かく出迎えられ、リハーサルを経て本番に挑戦。すぐ横でペアの職員が見守ってくれていることもあり、参加者の大多数は比較的にリラックスした様子で本番に臨んでいました。

参加者から語られた「パソコンが必要な理由」は、自動車整備や看護、広告デザインといった将来の進路・就職を見据えたものから、各種資格の取得、動画配信による他者との交流まで多岐にわたりました。

発表後に聞き手のスタッフから質問をし、参加者の思いに共感して対話することに努めました。

このプログラムは、現地で社会的養護の子どもや出身者の自立を支える「にじいろステーション」と「結いの実」の皆様が、参加者と顔の見えるつながりを新たに持ったり、深めたりする機会にもなりました。

中学3年生の頃に学習支援で関わっていた方とペアになりました。久しぶりにお会いできたことを嬉しく思いました。発表内容を考える際も、進路のことや退園後のことを自ら考えられるようになっていたり、ライツオンさんとの質問等にもしっかり答えられている姿を見て、とても成長を感じることができました。

——支援機関 職員



3枚とも 撮影：にじいろステーション

使用済みデバイスの寄付の受け付け

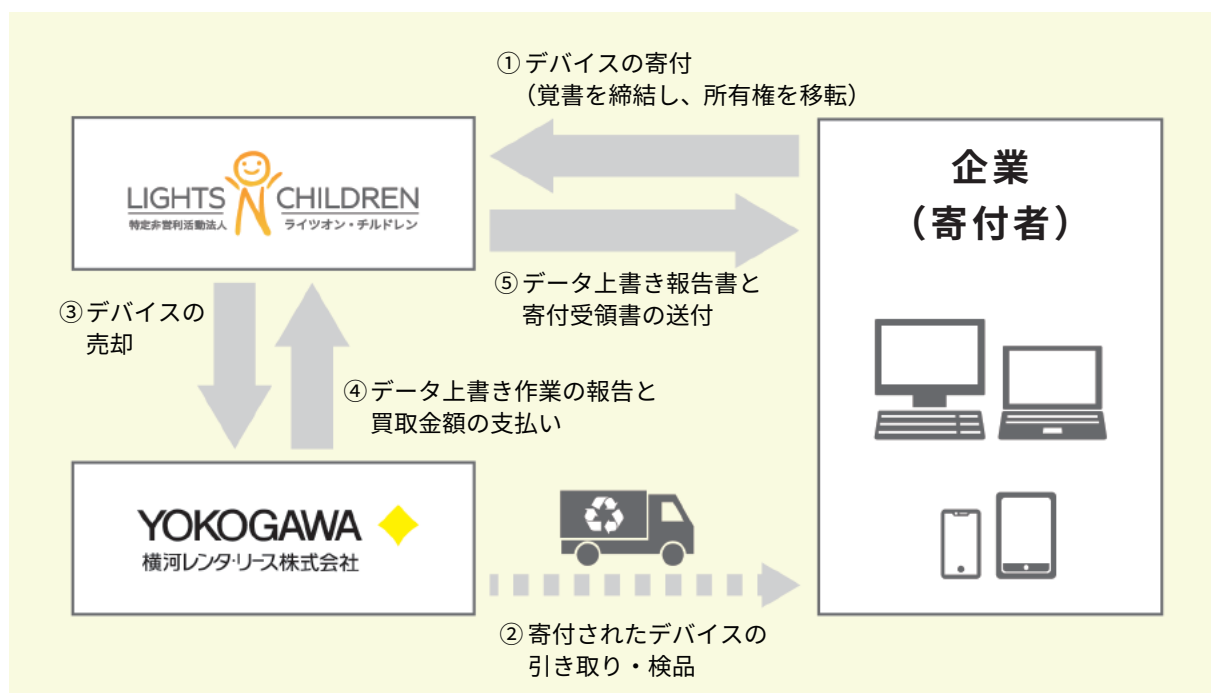
ライツオン・チルドレンでは、企業などから、使用済みのデバイス（パソコン、タブレット、スマートフォン）の寄付を受け付けています。

ご寄付頂いたデバイスは再生事業者（横河レンタ・リース株式会社）が回収して検品・データ上書き作業を実施したうえで買い取り、中古市場で再販するなどの形でリユースします。ライツオン・チルドレンは再生事業者からデバイスの買取代金を得て、活動資金とさせていただきます。寄付企業にとっては、使用済みデバイスの適切な廃棄ができ、さらに廃棄物削減による環境負荷の軽減にもつながります。



使用済みデバイスのお引き取り作業の様子

2025 年度は 39 の法人にご参画頂き、ライツオン・チルドレンの活動を支えて頂きました。



（この取り組みは、ご寄付頂いたデバイスそのものがライツオン・チルドレンを通じて子どもや児童福祉施設などの手に渡るしくみではありません。ライツオン・

チルドレンから子ども・施設などに寄贈する再生パソコンは、スペック等の要件に沿って機種を選定し、横河レンタ・リース様から購入しています。）

ワタシとスマホ プロジェクト

ワタシとスマホ プロジェクトは、児童養護施設などの現場を念頭に、子どものスマホ利用にかかる情報リテラシー教育と心理・発達に関する知識を統合して、よりよい見立てと手立てを提案することを目指しています。2024 年度からスタートし、3 か年度を予定しています。

関東地方と九州沖縄地方の 2 つの児童養護施設に協働して頂き、一部の職員の方々にプロジェクトに加わって頂いています。

私たちは子どものネット利用と逆境的背景の関連に注目し、2024 年度から 2025 年度にかけて、施設現場・外部専門家・文献などから様々な知見を得てきました。ネット上の対人関係のトラブルや長時間の利用を単なる「問題」ととらえるのではなく、子どもの動機に寄り添い、その背景を理解しようとしています。この見立てをモデルとしてまとめ、論文にしました（日本子ども虐待防止学会学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」2026 年春掲載）。

また、2025 年度は協働する 2 施設を各 5～6 回訪問して、職員や子どもを交えたセッションを行い、課題や目標と一緒に確認することを目指しました。さらに、子どものスマホに関する練習について、様々な手立てを検討しました。これらの活動の成果は、2026 年度以降に発表します。



連携先機関	所在地	訪問回数
児童養護施設 A	関東地方	6 回
児童養護施設 B	九州沖縄地方	5 回

会計報告

活動計算書

2025年4月1日～2026年3月31日
単位：円

I. 経常収益	
1. 受取会費	75,000
2. 受取寄付金	30,771,579
3. 受取助成金	1,027,044
4. その他収益	232,059
経常収益計	32,105,682
II. 経常費用	
1. 事業費	34,948,223
（うち人件費	25,810,469）
2. 管理費	10,931,789
（うち人件費	8,734,184）
経常費用計	45,880,012
税引前当期正味財産増減額	△ 13,774,330
法人税、住民税及び事業税	0

貸借対照表

2026年3月31日現在
単位：円

I. 資産の部	
1. 流動資産	114,403,292
2. 固定資産	
（1）有形固定資産	232,209
（2）投資その他の資産	1,494,000
資産合計	116,129,501
II. 負債の部	
1. 流動負債	2,804,353
2. 固定負債	0
負債合計	2,804,353
III. 正味財産の部	
正味財産合計	113,325,148
負債及び正味財産合計	116,129,501

事業別損益の状況

2025年4月1日～2026年3月31日
単位：円

	資源を”届ける” 事業	資源を”耕す” 事業	資源を”考える” 事業	その他必要な 事業	管理部門
I. 経常収益					
1. 受取会費	0	0	0	0	75,000
2. 受取寄付金	0	30,451,786	0	0	319,793
3. 受取助成金	0	1,027,044	0	0	0
4. その他収益	2,018	2,018	2,017	0	226,006
経常収益計	2,018	31,480,848	2,017	0	620,799
II. 経常費用					
(1) 人件費	10,582,292	6,968,827	8,259,350	0	8,734,184
(2) その他費用	4,970,730	1,413,438	2,694,782	58,804	2,197,605
経常費用計	15,553,022	8,382,265	10,954,132	58,804	10,931,789
当期経常増減額	-15,551,004	23,098,583	-10,952,115	-58,804	-10,310,990

※ 財務諸表は NPO 法人会計基準によって作成しています。

※ 詳細な財務諸表、事業報告書は、ライツオン・チルドレンのウェブサイトにてご覧いただけます。
<https://lightson-children.com/about/annual-reports/>

ご寄付とその他のご支援

ライツオン・チルドレンの活動は、企業・個人の皆様からの寄付金と民間助成金によって成り立っています。

ご支援・ご協力頂いた企業など

2025 年度に寄付金、使用済みデバイスの寄付などの形でご支援・ご協力を頂いた企業などの皆様を、一部ご紹介します。（五十音順・敬称略、使用済みデバイスの寄付は寄付受領書の発行日が 2025 年度内のもの）

株式会社アマデウス・ジャパン

株式会社アルビオン

NTT ドコモビジネスチェオ株式会社

株式会社 FGL サーキュラー・ネットワーク

MP 五協フード&ケミカル株式会社

カールツァイス株式会社

キャピタル・グループ

株式会社 CureApp

The UK Online Giving Foundation

CSL ベーリング株式会社

株式会社 JVC ケンウッド

公立大学法人静岡文化芸術大学

シュナイダーエレクトリックホールディングス株式会社

大日本土木株式会社

DHL サプライチェーンジャパン株式会社

ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社

ディ・ポップスグループ

東京インキ株式会社

豊田合成株式会社

株式会社日本 HP

日本テトラパック株式会社

ファンズ株式会社

芙蓉総合リース株式会社

ブラックロック・ジャパン株式会社

株式会社 BREXA Avance

株式会社 Macbee Planet

モンテ物産株式会社

株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション

横河レンタ・リース株式会社

株式会社 LIFE.14

株式会社リンクレア



SDGs（持続可能な開発目標）と
関連する活動をしています



The content of this publication has not been approved by the United Nations (UN) and does not reflect the views of the UN or its officials or Member States.

特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン アニュアルレポート 2025-2026（令和7年度）

発行者 特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン
発行日 2026 年 8 月 27 日

Copyright 2026 特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン



特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂1丁目10番8号 渋谷道玄坂東急ビル 2F-C

Web <https://lightson-children.com>

Email info@lightson-children.com

表紙に生成AIで作成した画像を使用しています。